

令和5年2月 15 日

漁業・公共事業地方連絡会議構成員 各 位

山梨県漁業協同組合連合会

代表理事会長 萩原 剛

(公 印 省 略)

魚にやさしい川づくりのお願い

皆様方におかれましては、日頃から本県内水面漁業振興へのご理解とご協力をいただき、有り難く存じます。

さて、河川法の目的が現在では、治水、利水、河川環境の整備と保全の3つになり、それを実現するため「多自然川づくり」が全ての基本とされ、これに基づき「美しい山河を守る災害復旧基本方針」等の指針やマニュアルが示され、環境への影響緩和措置を図ることとされています。

最近、多発する災害に対応するため国土強靱化事業が大規模に実施され、山梨県内でも、橋梁や溜池の改修、防災施設の補修、浚渫伐木等の事業が各地で実施されています。その結果、施工に伴う濁水の流出や、画一的な定規断面で直線化した施工に伴う環境の単調化、河床平坦化、淵の減少等、魚が住むための条件が十分クリアできない状況が生じています。

防災事業が環境の保全に優先することは至極当然ではありますが、環境への悪影響を軽視するべきではないと考えます。つきましては、多自然川づくりの基本に立ち返り、環境への影響を緩和していただきたく、別紙のとおり要望いたします。

なお、河川に関する事業は、自然が相手であることから、指針やマニュアルに基づく対応だけでは十分でないと考えます。そこで、その河川の特性を把握し、経験豊富なコンサルタントや水生生物の生息環境に詳しい山梨県水産技術センター等と意見交換した上で、効果的な対処をお願いしたいと思います。

また、治水以外の治山、砂防事業においても、国土防災のための基本理念は同じであると考えます。事業実施の際はしかるべき配慮をよろしくお願いいたします。

個別の要望事項

放流に支障を来さない工期設定

● 山梨中央漁業協同組合

○ 状況

R4 年度釜無川、信玄橋上流工事の終了が R5.5.31 になっている。アユ放流に間に合わなくて困っている。R5 年度にも工事をする予定があるようなので、放流とかぶらないように年内に終了して欲しい。

○ 要望内容

漁協と話し合い工期を決めてほしい。(国土交通省、山梨県発注など) 県漁連からも申し入れてほしい。

河川へ昇降できる階段の設置

● 小菅村漁業協同組合

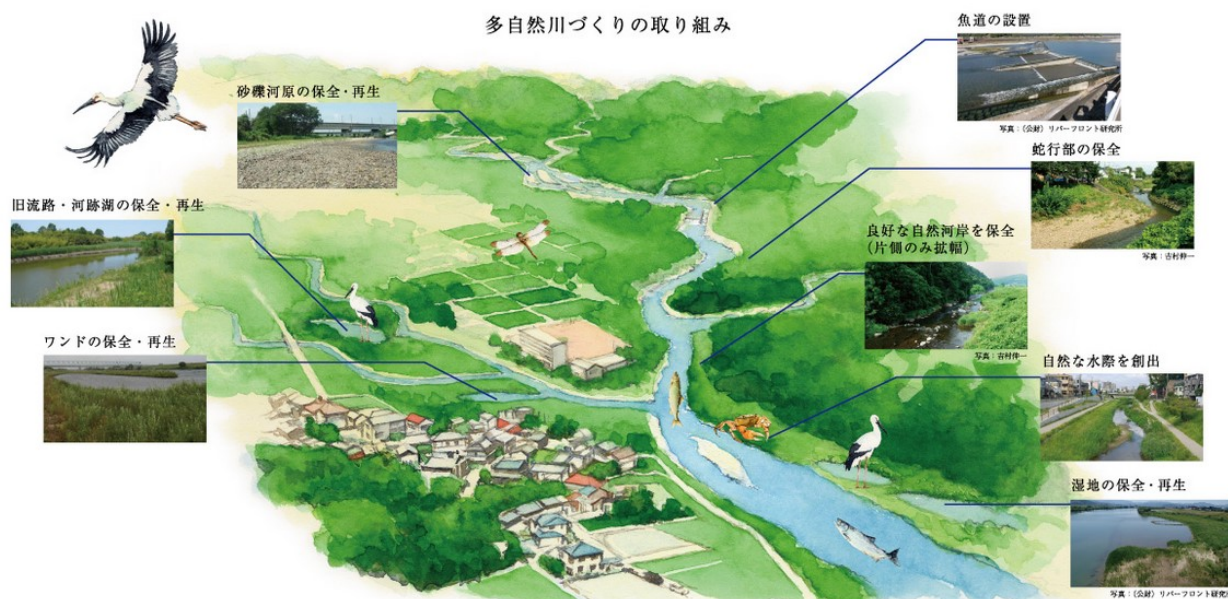
○ 状況

放流増殖作業、草刈り、又釣り等のために河川への昇降路として、階段の必要な所がある。現在堤防のブロック積みが高いため、河川に簡単に下りることができず、遠回りをして簡易のはしごで下りている。このため、バケツに魚と水を入れて放流する作業が大変となっている。

過去に階段の設置を実施していただいた数カ所では、現在も有効利用している。

○ 要望内容

上記のとおり大変困っているので、昇降路として階段(コンクリート製、一カ所)の設置をお願いする。



河川工事と河川環境が共存するために

魚の生息に必要なもの

水量	○ 豊富な水量	×	取水による流量減少（生息空間の減少）
水質	○ 増水時の濁り	×	平水時の濁り （下流河床への沈着）
連続性	○ 自由な移動	×	落差工による分断化
多様性	○ 多様な物理的環境	×	改修による直線化・平坦化 （避難・産卵・接餌・寝場所）
攪乱	○ 流量の時間的変動	×	一定の維持流量（出水による河床の更新）

問題点

○ 濁り

流量が増えずに生じる人為的な濁りでは、その下流で通常沈殿することのない場所へ泥が沈殿・付着する。下流域が礫河床であった場合には、石表面に付着・沈殿した泥は、付着藻類の生育を阻害し、これらを餌とする水生昆虫やアユ等草食魚類に影響を与える。また、発生する濁りが自然発生の濁りより、高濃度であったり、長期間持続したり、頻度が多かったりする場合には、直接的に魚類等生物全般に影響（孵化率・成長率の低下、忌避、移動、死滅等）を与える。

○ 河床形状の変更

河床の表面は、河原や地中にある土砂に比べ、粒径の小さいものが流出するため、粒径の大きいものがかみ合って安定している。この状態は流路、特に流速の速い河床において顕著に観察される。流路掘削や流路形状を変更すると、河床は不安定になり新たに露出した粒径の小さい土や砂などが容易に流出する。流出した土砂は、下流の淵を埋め、また浮き石を沈み石にすることで水生昆虫や底生魚等の生物の生息場所を減少、消失させる。

○ 石の消失

直径30cm以上の巨礫は、河床を安定させ、河川形状の形成に寄与するとともに、巨礫周辺はアユや水生昆虫の重要な餌場となっている（石のないところにアユは定着しない）。小さな礫や砂は小出水でも移動・供給されるが、巨礫は十数年に一度の大出水や土石流でなければ供給されない。このため一度巨礫を撤去すると、生物の生息空間としての価値は大幅に低下又は消失し、復元することはほとんどない。

対応案

● 流路形状の維持

- 河川環境を悪化させない設計：施工方法や仮設道路配置の検討
- 良好な環境の保全：**流路形状は変えない**。掘る場合でもスライドダウンで瀬淵構造を復元。
- **河床の石は持ち出さない、埋めない、護岸に使わない**。堆積土砂はスケルトンバケットでふるい石は残して土砂のみ搬出する
- 生息魚類の保全：瀬回しの際に水を一度に止めると、魚は水溜まりから逃げられず死んでしまうので、水を全部止めずに一晩チョロチョロ流すと、殆どの魚は本流へ逃げる。

● 濁りの低減

- 濁水の発生防止
 - ・ **流路内での掘削は行わない**。スライドダウンする場合には、切替先流路を事前に掘削し、最後に締め切りを開けることで濁る時間を短縮する。
 - ・ 作業場所へ漏出する前にポンプで**きれいな水を集めて排水**し、濁水の発生を防止する。
 - ・ 流路に影響が少ない施工方法や仮設道路の設置を行い、濁水の発生しにくい施工を行う。
- 濁水の流出抑制
 - ・ 可能な限り**浅く、広い沈殿池**を設置することで短時間に沈殿させる。

● 河川環境の保全

- 漁協との連絡調整
 - ・ 対釣り人：解禁日・放流日・休日を避けた作業工程の検討
 - ・ 対生物：ヤマメ、イワナ、ウグイ、アユ等各々の産卵期や産卵場所を避けた施工
- 業務発注上での配慮
 - ・ 設計書の特記事項として、濁り低減、流路形状維持、漁協と連絡調整を記載
 - ・ 総合評価落札方式において、環境影響緩和策の提案がなされた場合には、業務理解度や対応方針の項目で、十分な評価を行う。
 - ・ 完成検査の業務成績評価において、環境影響緩和策が実施されていた場合には、動植物等に対する配慮や水質汚濁に対する配慮等について、十分な評価を行う。

上記で要望した内容については、任意仮設による部分が大きいので、着工前に施工業者及び漁協と十分な調整をお願いしたい。